

学校だより

10月号

一中の桜並木

令和7年10月29日

「教育目標」

考える人

思いやりのある人

助け合う人

成しとげる人



-中HP

連雀学園三鷹市立第一中学校 校長 宮城 洋之

歌声に包まれて過ごした2週間

副校長 矢澤 理恵

10月27日(月)、今年度の合唱コンクールを杉並公会堂の大ホールにて実施しました。合唱コンクール実行委員会で決めたスローガンは「天歌統一 ～努力の先の頂へ～」。「天歌」には天まで響く歌声、「統一」にはばらばらだったものを一つにするという意味を込めたということです。前の週までインフルエンザの流行で閉鎖していた学級もあり、コンクール形式で実施できるかギリギリの判断となりましたが、何とか実施することができました。…とは言っても、全員揃っての合唱とはならなかったクラスも多く、生徒たちは少し悔しい思いを残しているようです。



学年合唱に臨む3年生

☆ ☆ ☆

今年度の合唱コンクールに関する取組は1学期からスタートしました。実行委員を決め、自分たちの歌う曲を決め、指揮者・伴奏者を決める。その指揮者・伴奏者は夏休みを使って練習する。2学期からは音楽の授業で指導を受けながら技術を身に付け、自分たちが目指す合唱をイメージしていく。実行委員を中心に準備を徐々に積み重ね…本番までの2週間で、一気に各クラスの合唱を自分たちで作りに上げていく。…この2週間は学校中に、本当によく歌声が響き渡っていました。私が特に「一中生ってすごいな!」と感じたのは、先生たちが指導する声ではなく、実行委員やパートリーダーが良い点やもっと工夫したい点を伝える声が聞こえるところです。そして、それを一人ひとりが受け止め、実現しようと惜しまず努力するところです。「リーダーシップとフォロワーシップ」と言う話を学校ではよくしていますが、一中生はそれをきちんと理解した上で合唱に取り組んでいるんだということがよく伝わってきました。

上級生の練習の様子やリハーサルでの他クラスの合唱に刺激を受けて、更には初めての試みとなった声楽家の方による特別授業でいただいたアドバイスを真摯に受け止めて、日々練習に励み、どんどん歌声が豊かになっていく…その吸収力の高さにも驚きました。最上級生である3年生は、限られた時間の中で、クラス合唱に加えて学年合唱「大地讃頌」にもチャレンジ。240人の歌声を揃えるために、体育館のフロアに集合して、全員で集中して指揮者を見つめる様子はさすが3年生だと思える姿でした。ライバルだったり仲間だったり…これこそ学校行事の醍醐味だな、と改めて感じました。



声楽家の方による指導

☆ ☆ ☆

そして迎えた合唱コンクール本番。プロのコンサートも行われる音響のよいホールで、今までの思いを乗せた渾身の合唱は、本当にどのクラスも素晴らしかったです!

…と言いたいところですが、私がホールの中で発表を聴くことができたのは2クラス程度、あとはホワイエのモニターから微かに聞こえる歌声に耳を澄ませて楽しませてもらいました。学校で歌声に包まれて過ごした2週間の思い出しながら、きっとどのクラスもそのクラスらしい合唱をホールに響かせたのだろうな、と幸せな気持ちで過ごすことができました。

☆ ☆ ☆

保護者の皆様には、生徒たちの歌声がどのように届きましたでしょうか。これまでの練習の成果を感じていただけたら幸いです。本校の規模にしては小さいホールでの実施となり、保護者の皆様には各学年半分のみでの鑑賞にご協力いただくこととなりました。ご理解・ご協力に心より感謝申し上げます。保護者アンケートにて、お寄せいただきましたご意見・ご感想等を参考にさせていただき、今後も一中らしい学校行事づくりを、生徒とともにしていきたいと思っております。ありがとうございました。